

○東海大学 田巻以津香先生による講義の様子と生徒の感想



講義名：「体育を学問するとは」

☆生徒から講師の先生へのお礼

1年 Y.Rさん

東海大学生涯スポーツ学科 田巻 以津香先生

1月24日の講義では、お忙しい中我々横浜清風生のためにお時間作ってくださったこと本当に感謝しています。ありがとうございました。

私が今回田巻先生の授業を受けてみて感じたことは文理には密接な関わりがあるということです。文系と理系は全く別々の道で関わり合いがないのではないかと、中学生や文理選択に悩む高校一年生の時期に共通して感じる事かと思います。実際私も田巻先生の授業を受けるまでは文理の関わりについてはとても曖昧でした。ですが、今回授業を受けてみてはっきりしました。それをはっきりとさせる分野でもあるのが体育学なのだと感じました。なぜなら、体育学・スポーツには「おこなう、みる、ささえる、しらべる」という視点があると教わったからです。スポーツはプレイヤーだけで成り立っているわけではありません。コートに立ってプレーをすることを目的として活動をするのならば文系を専攻すれば近道になるでしょう。これは「おこなう」に関してのものです。しかし「ささえる」という視点からスポーツと関わるとなると、文系的知識だけではスポーツマンを支えることができず、柔道整復師や理学療法士、作業療法士などの理系教科を要する資格を取らないといけません。他にも「みる」、「しらべる」という視点の中にも工学、物理学、外国語学など文理が混在しています。そのため、田巻先生は「体育学には様々な切り口がある」とおっしゃっていました。様々な切り口があるからこそ、我々高校生は大学で学びたい学問についてしっかりと下調べをし、いかに学問に対する理解を深められるか、間違った理解を身につけずに正しい道を歩めるかを考え、行動することが大切だと考えました。この大まかな指標に向けて進んでいくためにまず自分たちが考えるべきことは、文理の密接な関わり合いにあるのだと感じました。改めまして本日は本当にありがとうございました。

1年 O.Rさん

僕は陸上競技に取り組んでおり、「競技者」という視点からスポーツを楽しんできました。今回の講義を通じて、スポーツへの関わり方をたくさん学ぶことができました。例えば、コーチとして選手を支えたり、どうしたら速く走れるかを研究したりする関わり方もあるということです。また、個人的に体育は理系のものだと思っていましたが、体育史や体育社会などの文系の分野もあると初めて知りました。このように色々な分野が関わり様々な視点から楽しめるのがスポーツなのだと思います。僕も「競技者」として、「観客」としてスポーツをもっと楽しみたいと思います。また、僕もいつか色々な人が関わる大きな大会で活躍したいです。